

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人マナビダネ

事業名	不登校の子どものための学びの土台をつくる居場所事業																							
助成事業の種類	SDGs 推進事業（ 人間 ）																							
1. 事業の目的	心理的な安全を感じられる場所での諸活動を通じて、自発的な学習意欲につながる興味や関心を育むことと、社会参加に必要な対人力を学ぶための体験の場を提供することを目的とした。																							
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1・不登校の子どもたちが受けられる教育機会が少ない 2・フリースクールなどの居場所は県内に数か所しかない 3・支援学級在籍の子どもたちにも不登校が増えている 4・不登校により約4割の家庭で支出が増える 5・不登校がきっかけで世帯収入減になる家庭が約3割 6・不登校の家庭は学校だけでなく社会との繋がりも希薄になりがち 7・不登校の子どもを育てる保護者をサポートする場が少ない 8・フリースクール等が適切な運営を行うための支援機関がない 																							
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>上記の地域や社会の課題を解決するために、①および②を行った。</p> <p>① 週2回の居場所事業</p> <p>② 学校心理士による訪問支援を行った</p> <p>【実施状況】</p> <p>○週2回の居場所事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">時期</th> <th style="width: 60%;">内容</th> <th style="width: 25%;">延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月</td> <td>5. 7. 12. 14. 19. 21. 26. 28 計8回開催</td> <td>59名</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>3. 5. 10. 12. 17. 19. 24. 26. 31 計9回実施</td> <td>86名</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>2. 7. 9. 14. 16. 21. 28. 30 計8回開催</td> <td>78名</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>5. 7. 12. 14. 19. 21 計6回開催</td> <td>56名</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>9. 11. 16. 18. 23. 25. 30 計7回開催</td> <td>66名</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>1. 6. 8. 13. 15. 20. 22. 27. 29 計9回開催</td> <td>77名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※延べ人数は月ごとの子どもの参加人数（見学・無料体験も含む）</p> <p>参加者：小1～中2までの児童生徒（都内在住の子ども2名を含む） 定期利用の子どもに特別支援学級の児童2名が参加中 その他、不定期で参加した児童生徒4名に発達障害の診断有</p>			時期	内容	延べ人数	9月	5. 7. 12. 14. 19. 21. 26. 28 計8回開催	59名	10月	3. 5. 10. 12. 17. 19. 24. 26. 31 計9回実施	86名	11月	2. 7. 9. 14. 16. 21. 28. 30 計8回開催	78名	12月	5. 7. 12. 14. 19. 21 計6回開催	56名	1月	9. 11. 16. 18. 23. 25. 30 計7回開催	66名	2月	1. 6. 8. 13. 15. 20. 22. 27. 29 計9回開催	77名
時期	内容	延べ人数																						
9月	5. 7. 12. 14. 19. 21. 26. 28 計8回開催	59名																						
10月	3. 5. 10. 12. 17. 19. 24. 26. 31 計9回実施	86名																						
11月	2. 7. 9. 14. 16. 21. 28. 30 計8回開催	78名																						
12月	5. 7. 12. 14. 19. 21 計6回開催	56名																						
1月	9. 11. 16. 18. 23. 25. 30 計7回開催	66名																						
2月	1. 6. 8. 13. 15. 20. 22. 27. 29 計9回開催	77名																						

時 程：9:30 開始時間
9:40 朝の体操（ブレインジム）
9:45～10:30 マイプラン学習
10:30～11:30 フリープラン学習
11:30～12:00 ミーティング
12:30～13:20 自由時間
13:20～13:30 掃除・帰りの会

「マイプラン学習」は自分の決めたことを静かに行う時間

「フリープラン学習」は遊びの中から人との関わりや共に活動する楽しさを知る時間。各月ごとにテーマを設定し実験・工作・調理などを実施している。

「ミーティング」は様々なテーマについて対話を通じ、自分の気持ちに気づき言葉にする時間としている。

その他：上記時程を基本として参加者状況にあわせて内容を修正。

月に1回以上朝から自然体験する日を設けている（たき火等）
毎月、福祉作業所内のパン屋や駄菓子屋等での買い物を実施
集団行動や社会体験のために遠足も実施している

○学校心理士による訪問支援

・訪問日時

9月19日、10月3日、11月14日、12月19日、2月13日
9時30分から12時30分（10月12月は13時30分まで）

・目的

気になる子どもの行動観察から指導のポイントを把握すること、
および、適切な活動が提供できているかという観察を依頼した。

・結果

全5回の訪問で、事業期間に定期利用者となった9名全ての行動観察が完了した。また、訪問日から1週間以内に、保護者外のスタッフが参加する会議を2時間ずつ行い、行動観察から得られた特性の把握と対応策の提案、活動への助言をもらった。

○広報実績について

- ・団体のHPやSNSを利用した広報
- ・市内公民館等でポスター掲示
- ・市内の各小中学校の相談室でのチラシの配布。
- ・不登校支援をする関係のある団体へのHPやSNSの周知協力を依頼。

<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p><u>成果① 定期的な居場所の提供ができたこと</u> スタッフへの謝金問題で継続を断念せずに終了することができた。また、社会課題としてあげた1～3については、今回の助成をうけたことで課題解決のための対策に取り組み始めることができた。また、助成により家庭負担を安価に抑えることができたことも社会課題4～5の世帯収入の問題にも貢献できていると感じている。</p> <p><u>成果② 子どもたちに行動面での変化が生じている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過剰適応のみられた子たち数名が自分の意見を伝えるように ・ スタッフや友達に会うために積極的に通えるようになった ・ 友達と遊びたいという意欲からルールが守れるように ・ 友達とのトラブルから行動を振り返るようになった子がいる ・ 年下との関わりから譲ることを覚える <p>これらの変化は、家庭にいるときには起こりえない変化だといえる。</p> <p>尚、活動中に実施した実験と調理は、すべて子どもたちから提案された「これやってみたい！」を形にしたものである。これにより、他の子どもが提案したことを楽しく体験をすることで、自分の「やりたい！」も言葉にしていきたいという意欲が生じていると感じる。</p> <p><u>成果③ 学校との関わりに変化が生じた子どもたちが複数いる</u> 本事業は学校復帰を目的としたものではないが、学校との関わりに変化が生じている。こうした変化は、ご家庭や学校側の配慮があってこそではあるが、本活動の効果もあると認識している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 完全に学校復帰した子が1名（在籍2022年5月～2023年10月） ・ 5月から継続参加中の低学年の子は、3学期から保健室登校を始めた。現在まで学校に行く頻度と滞在時間がだんだんと増えている。 ・ 特別支援学級在籍の高学年の児童は、数年間の不登校を経て3学期より、活動日以外は学校で一日過ごせるようになった。 <p>この子たちは、子ども同士の関わりの中で自分が他者から認められる体験を繰り返すことから、自己信頼や自己肯定感を育んだのかもしれない。そして、自分に自信が持てるようになると、同級生や少し広い世界を求めて学校に行きたくなっているようにみえた。</p> <p>居場所（フリースクール）を開催して2年半だが、初期参加の7名のうち4名が学校や適応指導教室に行くようになっている（うち2名は経済的理由で退会）。こうした当法人の事例からも、不登校の子どもには、学校と家庭の間にある居場所が必要なのだと感じる。</p>
--------------------------------	--

成果④ 子どもたちの課題が把握できた

活動中に子どもたちの持つ発達課題が見つかることがある。

発達障害の理解があるスタッフたちによる行動観察から、発達課題が見つかることが数件あった。特別支援学級のベテラン教員だったボランティアが学習の時間に参加していることでも、子どもを観察する際の正確性を上げていると考えられる。遊びの最中にも、気になる行動をする未診断の子どもは多い。これらの子どもたちは、心理士の行動観察により、適切な見立てと対策案を得ることができた。保護者には、伝え方に配慮しながら、適切な支援につながるよう進言ができた。

成果⑤ 子どもを預ける場ができることで母親が働けるようになる

子どもの不登校をきっかけに7割の親の仕事に影響あり、5人に1人が離職を決断しているという調査結果がある。当法人にも働き方を変えた保護者は多数いる。しかし、子どもを預ける時間が確保できるようになることから、フリーランスでの仕事を増やす人や、パートタイムでの仕事が再開できるようになっている。

成果⑥ 保護者同士の支えあいがはじまった

10月から学校復帰した子の保護者から、保護者同士の関わりの場が欲しいという要求があり、12月より保護者の自主企画として「茶話会」が開催されることになった。

この運営には、主に当法人の設立メンバーでもある保護者（スタッフとしても参加中）の尽力により、茶話会は月1回、継続開催している。こうした関係があると、子育てのリフレッシュがはかれるだけでなく、孤独感や不安が減っているという感想を聞く。これは社会課題7および8への対策の一助となっているともいえる。

成果⑦ 地域との連携が増えた

法人発足当所から入間市教育センターおよび入間市教育委員会と入間市障害者基幹相談センターとの連携があったが、活動2年目になる今年度からは、特別支援学級に通う児童たちの学校で開かれている支援者が一同に集まる支援者会議に参加するようになった。

その他、飯能市教育センターとの連携がある。また都内のお子さんが在籍しているため、東京都が行ったフリースクール調査へ協力した。

さらに、利用者の子どもからの発案で「中高生のための居場所事業」を拠点センターではじめることになったため、同センターで活動している他団体や関連機関との協働や相互協力が始まった。

5. 費用面での工夫	<p>会場費免除の施設を探し使用料免除団体として登録をした(入間市青少年活動センター、入間市健康福祉センターの2か所)</p> <p>自家用車利用のスタッフの交通費は、人件費に含ませてもらった。</p>
6. 地域社会への還元について	<p>多様な子どもが学べる場があるから、「子育てするなら入間でしょ!」と言われるような街づくりを担うこと。</p> <p>上記は、当団体のビジョンである。</p> <p>生産年齢人口減少の加速化がはじまってしまった社会では、若い世代が住みやすい環境を整えていくことは、地元大きく貢献できる事業となると考えている。そのため、当法人では、不登校の子どもたちの支援を通じて、地域資源に広く参画を求めて、活動の活性化を目指している。</p> <p>今年度の事業成果からみるととても大きな目標ではあるが、小さいことからコツコツと実績と信頼を積み重ねたい。</p> <p>本年度は、月に1回の福祉作業所での買い物と交流、駄菓子屋訪問や外食体験、子どもたちが地元イベントに協力等の活動を行った。また、拠点センターに地域の子どもたちも使える「森の子ども図書室」の設置のための広報活動などを、活動中に子どもたちと行った。</p> <p>現在は、スタッフとしてお力を貸していただくことで社会参加になる協力者との出会い求めて広報を行ったり、体験学習の場として地元の企業や地域の方々に協力を求めたりしながら、一方的な支援をいただくだけではない協働を模索している。</p>
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>本事業の継続には、受益者からの事業収入や助成金の利用以外の活動資金の流れをつくることが不可欠であると考えている。</p> <p>子どもは未来の日本を支える社会の宝であるため、将来は企業寄付を収入の柱の1つにすることを想定している。また、行政からの資金面での支援を得るためにも、「居場所の必要性を示せる実績を残すこと」を、次年度以降の数年にかかる目標にする。</p> <p>この「居場所の必要性を示せる実績を残す」ために、次年度はまず、今年度の結果から得たさまざまな反省を活かした運営を行い、活動の質をあげていく。資金面については、各種の助成金申請にて支援いただく予定である。</p> <p>また、次年度は「実績の残し方」や学生ボランティアの協力を得るために、不登校研究をしている大学研究室とのつながりを探していく。</p>

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人マナビダネ

1 収入の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
県助成希望額	500,000	251,118	-248,882	
自己資金	19,000	0	-19,000	
事業実施による収入等	520,000	660,000	140,000	
その他	0	0	0	
合計	1,039,000	911,118	-127,882	911118

2 支出の部

決算額の収支が一致して
いません 増減額の収支
が一致していま

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
会場費	0	4,500	4,500	※助成項目外
通信運搬費	0	0	0	
旅費交通費	15,750	17,160	1,410	
消耗品費	40,000	47,105	7,105	※領収書不備 -6,793
備品費		0	0	
委託費		0	0	
謝金	100,000	100,000	0	
人件費	858,250	736,000	-122,250	
その他	25,000	17,646	-7,354	
合計	1,039,000	922,411	-116,589	